



持っています エコの心と マイバッグ

神奈川県レジ袋削減実行委員会

取組状況報告書

(平成21年度～平成24年度)



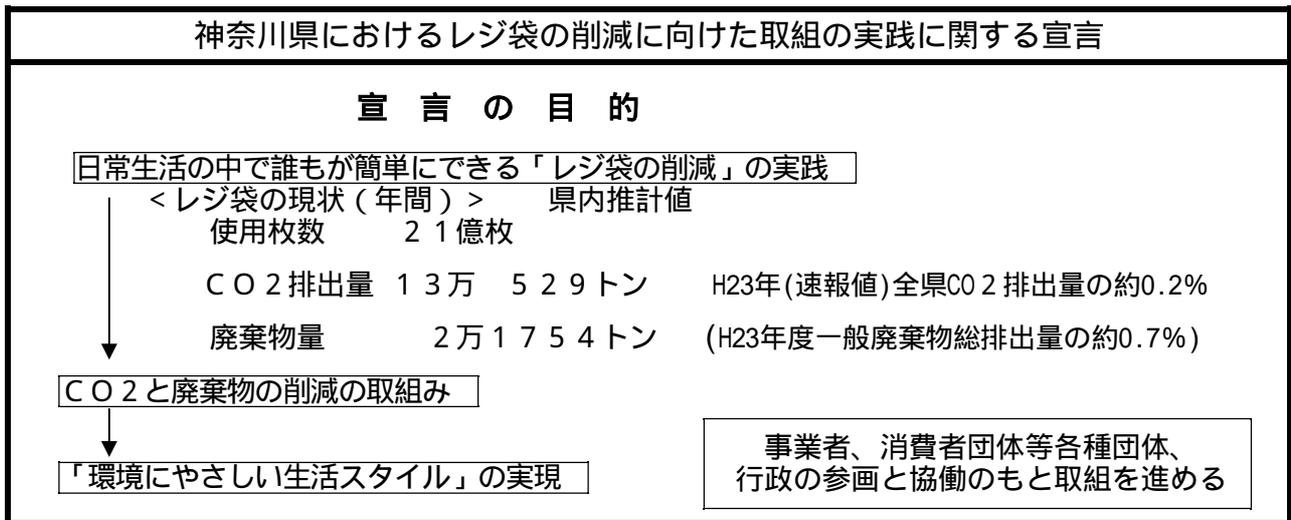
神 奈 川 県

(環境農政局環境部資源循環課)

目 次

1	神奈川県におけるレジ袋の削減に向けた取組の実践に関する宣言の概要	1
2	レジ袋削減実行委員会の取組について	2
3	モデル地域の取組	7
4	賛同事業者による取組報告	15
5	各種アンケートの調査結果	25
6	普及啓発一覧	28
7	参考資料	

1 神奈川県におけるレジ袋の削減に向けた取組の実践に関する宣言の概要



各主体の役割

事業者、消費者団体等各種団体、市町村、県の連携・協力に基づくレジ袋削減の取組の実施

事業者（第1項）

自らのレジ袋削減の取組の推進
マイバッグ等の利用の促進
レジ袋の無料配布中止等の取組

消費者団体等各種団体（第2項）

マイバッグ持参の実行
レジ袋削減に関する啓蒙活動等の実施
事業者・市町村・県が行うレジ袋削減の取組への協力

市町村（第3項）

自らのレジ袋削減の取組の推進
事業者のレジ袋削減の取組を積極的に支援

神奈川県（第4項）

レジ袋削減に向けた効果的なPR等による事業者の取組への支援
賛同する消費者団体等各種団体の拡大
レジ袋削減に向けた積極的な普及啓発

レジ袋削減の方策

モデル地域の指定（第5項）

「モデル地域」とは、4者の協働により、積極的にレジ袋削減に取り組む地域で、神奈川県が指定（市町村主導による協議会設置、協定締結）

県内各地にモデル地域の展開を図る
茅ヶ崎市（平成22年1月25日指定）
藤沢市（平成22年4月21日指定）

計画・報告制度（第6項）

事業者は毎年度、計画書・報告書を作成し、県に提出

- ・店舗ごとのレジ袋削減の数値目標、取組内容等
- ・当該計画の達成状況等

県は、計画・結果をとりまとめて、県全体のデータとして公表

特定店舗制度（第7項）

「特定店舗」とは、事業者が地域の連携等を通じて、レジ袋の削減に積極的に取り組む店舗で事業者が指定（特定店舗を指定しないことも可能）

特定店舗は高いレジ袋辞退率を設定

指定後1年目	30%以上
2年目以降	60%以上

目標が達成されるよう4者が連携・協力して積極的に取り組む

効果測定（フォローアップ）（第8項）

レジ袋削減の実態を把握するための調査の実施

- ・レジ袋削減に関するアンケート調査
- ・ごみ組成分析調査

2 神奈川県レジ袋削減実行委員会の取組について

[経緯等]

平成 20 年 1 月：松沢知事（平成 15 年 4 月 23 日～平成 23 年 4 月 22 日 在職期間）が提唱した「クールネッサンス宣言」を推進するため、そのリーディングプロジェクトの1つとして「神奈川“NO”レジ袋プロジェクト」が開始

当初、県内小売店等でのレジ袋の使用禁止又は有料化等の手法により、平成 22 年度までに県内のレジ袋を 90%以上削減する目標を掲げたが、できるだけ多くの賛同が得られるよう意見調整を行った結果、共通目標は設定せず、地域の実情にあった自主的なレジ袋削減手法を検討することになった。

平成 20 年 6 月：神奈川県レジ袋削減実行委員会（県内の小売事業者、消費者団体等各種団体、市町村及び県で構成）を設置

平成 21 年 3 月：第 4 回神奈川県レジ袋削減実行委員会で、「神奈川県におけるレジ袋の削減に向けた取組の実践に関する宣言」を承認

平成 21 年 5 月：「神奈川県におけるレジ袋の削減に向けた取組の実践に関する宣言」発足式

平成 23 年 10 月：第 9 回神奈川県レジ袋削減実行委員会において、従来の取組を平成 24 年度まで継続して取り組むこととし、平成 25 年度に過去 4 年間の取組結果を踏まえ、検討を行うことを確認

平成 24 年 10 月：第 10 回神奈川県レジ袋削減実行委員会において、今後のあり方についての検討を再確認



「神奈川県におけるレジ袋の削減に向けた取組の実践に関する宣言」発足式
平成 21 年 5 月 12 日 神奈川県庁 大会議場

[開催状況等]

設置

名 称：神奈川県レジ袋削減実行委員会

取組内容：神奈川県におけるレジ袋削減に向けた取組方法の検討とその実施

構 成 員：事業者、消費者団体等各種団体、市町村及び県

委 員 長：神奈川県副知事 環境農政局環境部長（平成22年4月から）

開催状況

準備会（平成20年5月27日：神奈川県庁 災害対策本部室）

スーパー、コンビニ、百貨店、県商店街連合会、ドラッグストア、生協、農協、消費者団体、市町村等に参加を呼びかけ、レジ袋削減を全県的な運動として展開するため「神奈川県レジ袋削減実行委員会」を設置しり組むことを確認

第1回実行委員会（平成20年6月9日：横浜市技能文化会館）

「レジ袋削減に向けた事業者・消費者・行政の役割」「神奈川“NO”レジ袋宣言」「レジ袋削減に関する目標値の決定」等に関する協議

第2回実行委員会（平成20年6月18日：神奈川県民ホール）

「神奈川“NO”レジ袋宣言」、共通目標、削減方法等の検討

第3回実行委員会（平成20年6月26日：かながわ労働プラザ）

「神奈川“NO”レジ袋宣言」、共通目標、削減方法等の検討

第4回実行委員会（平成21年3月30日：神奈川中小企業センタービル）

- ・「神奈川県におけるレジ袋の削減に向けた取組の実践に関する宣言」の承認
- ・宣言賛同者の募集（平成21年3月30日～同年4月20日）

第5回実行委員会（平成21年5月12日：神奈川県庁 大会議場）

「神奈川県におけるレジ袋の削減に向けた取組の実践に関する宣言」の発足式

第6回実行委員会（平成21年11月27日：神奈川中小企業センタービル）

- ・レジ袋削減の取組状況の報告
- ・宣言賛同者による取組事例の発表

第7回実行委員会（平成22年7月8日：横浜市開港記念会館）

- ・レジ袋削減の取組状況の報告
- ・モデル地域市・団体による取組状況の紹介

第8回実行委員会（平成23年3月17日）[東日本大震災の影響を考慮し、会議形式での開催を中止し、資料を後日郵送]

- ・レジ袋削減の取組状況の報告
- ・レジ袋削減に向けた今後の取組（25年度に過去4年間の取組を踏まえ検討を行う提案）

第9回実行委員会（平成23年10月18日：波止場会館）

- ・レジ袋削減の取組状況の報告
- ・モデル地域市・団体による取組状況の紹介及び宣言賛同者による取組事例の発表

第10回実行委員会（平成24年10月18日：波止場会館）

- ・レジ袋削減の取組状況の報告
- ・モデル地域市・団体による取組状況の紹介及び宣言賛同者による取組事例の発表

[これまでの取組状況]

1 モデル地域の指定

(1) 茅ヶ崎市（平成 22 年 1 月 25 日指定）

市が「エコ・シティ茅ヶ崎マイバッグ推進会議」の構成員と連携・協力して、「マイバッグでお買い物」の考え方の市民への浸透など、レジ袋削減につながる取組を展開している。

(2) 藤沢市（平成 22 年 4 月 21 日指定）

市が片瀬・鵜沼地区内に店舗を有する事業者及び活動の場を持つ消費者団体等各種団体と連携・協力して、環境にやさしい生活スタイルの確立に向けて市民生活においてレジ袋削減を図る取組を展開した。

協定（平成 22 年 4 月から 2 年間）に基づく取組終了後、市から藤沢市生活環境連絡協議会へ事業継承し、市内 13 地区ある各生活環境協議会が各地区の状況に合わせて幅広い取り組みを行っている。

2 計画・報告制度

宣言事業者（店舗を有する）が、レジ袋削減に係る店舗ごとの数値目標及び取組内容を定め、取組報告のデータ（レジ袋削減効果データ）については、ホームページで公表している。

3 特定店舗制度

事業者が地域の連携等を通じて、レジ袋の削減に積極的に取り組む店舗として、事業者が指定している。

特定店舗を指定している事業者の店舗のレジ袋辞退率について、平成 24 年度の平均目標値は 86% の設定（平成 23 年度報告）であったが、平成 24 年度の平均実績値は 89% を達成（平成 24 年度報告 9 社 138 店舗）した。また、平成 25 年度における平均目標値は 89% と設定している。

4 効果測定

(1) アンケート調査の実施

e-かなネットアンケート（平成 20 年 7 月）

マイバッグ使用、もらったレジ袋の再利用及びレジ袋有料化を調査
県民アンケート

マイバッグ使用、もらったレジ袋の再利用及びレジ袋削減の取組を調査

・平成 21 年度：県民ニーズ調査（広報課）

・平成 21 年度～平成 24 年度：県民アンケート調査（資源循環課）

(2) ごみ組成分析調査（平成 21 年 8 月、平成 22 年 2 月に実施）

ごみ排出時の袋の利用方法（外袋、内袋、ごみ）を把握するため、家庭から排出される「可燃ごみ」「不燃ごみ」について、袋の種類・使われ方、排出状況（使われ方、大きさ、大きさ別の利用方法、提供元）などを調査

[市町村・県の取組について]

1 市町村の取組・ごみ収集実態

- (1) レジ袋削減に関する様々な取組が行われている。
イベント等でマイバッグ持参の呼びかけの普及啓発、ホームページでレジ袋削減の情報掲載
制度による推進
 - ・リサイクルエコショップ制度（川崎市）
 - ・レジ袋削減協力店制度（相模原市）
 - ・ごみ減量化・資源化協力店制度（平塚市）
 - ・エコショップ・エコ商店街制度（鎌倉市）
 - ・ごみ減量推進店制度（藤沢市）
 - ・ごみ減量・リサイクル推進店制度（茅ヶ崎市）
 - ・スリムストア制度（厚木市）
 - ・マイバッグデー（南足柄市）
- (2) レジ袋をゴミ出しのゴミ袋として使用できる実態がある。
生活系ごみにおいて指定袋の指定がない市町村：18市町村
「平成23年度一般廃棄物処理事業の概要」による

2 県の取組

- (1) 事業者取組への支援
 - 「マイバッグお買い物マナー」のポスターを作成
 - 「レジ袋不要カード」の作成
 - 「目標達成特定店舗」ステッカーを配付
- (2) 賛同者の拡大
平成21年5月12日の宣言発足当初の賛同者数（96社・団体 852店舗）から徐々に拡大し、賛同者数は当初の約1.7倍となっている。
- (3) 普及啓発
神奈川“NO”レジ袋キャンペーンのキャッチフレーズ・イメージキャラクターの募集（平成20年4月）、決定（平成21年3月）
宣言事業者への宣言書、レジ袋削減(マイバッグ持参)ポスター等の配布・掲示
ホームページ「神奈川県におけるレジ袋削減の取組」による広報
事業者名の公表、事業者ホームページへのリンク貼り、レジ袋削減取組の紹介等
各媒体を活用した広報
 - ・「県のたより」、神奈川新聞「県民の窓」ほか各種広報誌、テレビ神奈川、NHK横浜FM、FMヨコハマ、FMカワサキ
 - ・電光掲示板（県庁新庁舎前 平成22年3月～平成23年3月）

イベントや展示等による「マイバッグ・キャンペーン」の実施

- ・ 県、市町村等主催の環境イベントでブースを設置して啓発活動を実施
- ・ 「レジ袋削減PRキャラバン隊」がスーパーの店頭、駅前等でのぼり、ポスター等を使用した啓発活動を実施（平成21年度～平成24年度）
- ・ 環境出前講座による啓発活動の実施

お買い物マナーの普及啓発（マイバッグ利用方法の呼びかけ）

「マイバッグお買い物マナー」のポスターの作成し、宣言賛同者に配布（希望店舗で貼付）、ホームページでポスターデータを無料提供

(4) ㈱ファミリーマートとの包括協定

県が企業と包括協定を結ぶ中、コンビニチェーンとは初となる「レジ袋削減に向けた取組の協定」を締結（平成22年12月17日）

[レジ袋削減の効果]

1 事業者の取組

平成21年度を基準にした取組効果

これまでの取組により、一人あたりのレジ袋使用枚数が減少し、レジ袋辞退率は平均約33%を維持している。取組開始以来、毎年約2億枚を超えるレジ袋削減の効果が見られた。

	H21 (確定データ)	H22 (確定データ)	H23 (確定データ)	H24 (集計データ)	平均
辞退率	35.9%	34.4%	31.4%	31.7%	33.4%
1人あたりの使用枚数	1.86枚	1.65枚	1.54枚	1.40枚	1.61枚
削減枚数	約218百万枚	約266百万枚	約287百万枚	約312百万枚	約270百万枚

事業者の自主的な取組の進展

(主な例) マイバッグ等持参運動

声かけの実施

レジ袋辞退者に対するポイント付与又は割引

2 消費者の意識

平成21年度から24年度まで駅前や店頭でレジ袋削減PRキャラバン隊による普及啓発を行い、消費者（平均約13,000人）にアンケート調査を実施した。

- ・ レジ袋をもらわないと回答した人の割合は平均約46%で、平成24年度は50%を超えた。
- ・ レジ袋削減に係る取組をしていると回答した人の割合は、平均約82%で毎年度定着している。
- ・ レジ袋削減に取り組んでいる場合、ごみを減らしたい環境のための身近な取組と回答した人の割合は、ともに50%以上で毎年度定着している。

3 モデル地域の取組

(1) 茅ヶ崎市

指定日 平成 22 年 1 月 25 日

指定地域 茅ヶ崎市全域

モデル地域の取組内容

茅ヶ崎市が「エコ・シティ茅ヶ崎マイバッグ推進会議」の構成員と連携・協力して、「マイバッグでお買い物」の考え方の市民への浸透など、レジ袋削減につながる取組を展開していきます。

モデル地域としての取り組みを開始するにあたり、「エコ・シティ茅ヶ崎マイバッグ推進会議」の構成 5 団体で「茅ヶ崎市におけるマイバッグ推進（レジ袋削減）に向けた取り組みに関する協定書」を締結しました。

～「エコ・シティ茅ヶ崎マイバッグ推進会議」とは～

地球環境や資源の保護が叫ばれる中、「エコ・シティ茅ヶ崎」を目指して、消費者と事業者がマイバッグの推進を通じて環境・資源保護に努めることを目的に、平成 15 年 4 月 1 日に設立しました。

【構成団体】

茅ヶ崎市商店会連合会、茅ヶ崎商工会議所、茅ヶ崎市大型店連絡協議会、茅ヶ崎市消費者団体連絡会、茅ヶ崎市



[協定に基づく取組]

- マイバッグ推進（レジ袋削減）に向けた取り組みに関する事業概要 -

1 事業趣旨

エコ・シティ茅ヶ崎を目指して、ごみの発生抑制・減量化及び、地球環境や資源の保護に向けた生活習慣の見直しを図る契機として、共同してマイバッグの持参を推進し、レジ袋の削減に取り組む。

2 取り組みの内容

環境教育や各種イベント等の機会をとらえ、環境に関する情報発信をしていく。

推進会議の構成員は相互に連携、協力し「マイバッグでお買い物」を広く市民に浸透させ、レジ袋削減の取り組みが推進するよう以下の運動を展開する。

- (1) マイバッグ等の普及・活用・PR
- (2) 店内放送・ポスター等によるレジ袋削減の情報発信
- (3) 茅ヶ崎ハレの日パッケージ事業（茅ヶ崎市商店会連合会が実施）
- (4) レジ袋辞退者への特典の付与
- (5) レジ袋の無料配布の廃止

統一キャラクター「エコル」を活用し、積極的に広報、支援を行う。



モデル地域の取組内容（平成 22 年度～平成 24 年度）

1 意見交換

マイバッグ推進会議（基本月 1 回程度）

各団体からの活動報告

平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
6 回	9 回	9 回

神奈川県レジ袋削減実行委員会（各年 1 回）

平成 22 年度は、エコ・シティ茅ヶ崎マイバッグ推進会議の活動状況を発表
湘南エコウェブ会議

茅ヶ崎市・藤沢市・寒川町のレジ袋削減の取組状況を発表

平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
欠席	2 月 20 日	2 月 5 日

2 イベント

県と合同でのレジ袋削減街頭キャンペーン

茅ヶ崎駅北口ペDESTリアンデッキにてティッシュ配布及びアンケートを実施

平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
11 月 12 日	10 月 13 日	10 月 15 日

街頭キャンペーン（市が実施）

駅前や、湘南祭会場でのティッシュ及びエコバッグ配布

平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
2 回	1 回	3 回

ちがさき環境フェア

マイバッグ推進会議の取り組み内容を紹介

平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
7月3日～4日	11月3日	6月23日

市役所ロビー展（マイバッグでお買い物展）

マイバッグ推進会議の取り組み内容の紹介及びマイバッグの展示

・平成 23 年度以降は、市役所ロビー閉鎖のため未実施

みんなの消費生活展への出展（エコ・ウィーク同時開催）

マイバッグ推進会議の取り組み内容の紹介、マイバッグの展示、小冊子を配布
クイズに答えた方に、傘バッグを贈呈

平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
1月24日～28日	1月23日～27日	6月18日～23日 1月21日～25日
ジャスコ茅ヶ崎店	ジャスコ茅ヶ崎店	女性センター



みんなの消費生活展

お買い物はマイバッグで！
エコ・ウィーク開催

2012年
1月23日（月）～1月27日（金）
期間中、環境保護に向けた取り組みにご協力ください

クイズに答えてプレゼントキャンペーン実施中

オリジナルエコバッグプレゼント
※詳細は配布中の小冊子にて

エコシティ茅ヶ崎
マイバッグ推進会議
茅ヶ崎市
茅ヶ崎商工会議所
茅ヶ崎青年会議所
茅ヶ崎商工大会連合会
茅ヶ崎市民会
茅ヶ崎市消費者生活協議会



お問合せ先
0467-58-1111（農工金庫内）

※エコ・ウィークは任意で、主催者及び協賛者が、マイバッグの配布とクイズ実施期間中に限定して実施します。

エコ・ウィーク

3 各種広報

ごみ通信ちがさき春号・秋号（市が年2回発行）

マイバッグの利用を呼びかける記事や、
各団体の取り組みを掲載

パネル作成

エコ・シティ茅ヶ崎マイバッグ推進会議
の取り組み内容を紹介



パネル

4 その他

茅ヶ崎市立小・中学生を対象にアンケート実施（毎年夏休みに実施）

平成 24 年度 小学 4 年生調査結果（一部抜粋）

	はい	ときどき	いいえ
買い物の時レジ袋を断るか	24%	57%	19%
家族はマイバッグを使っているか	38%	38%	24%
レジ袋が石油で作られていることを知っているか	29%	-	71%

大型店舗のレジ袋辞退者数を毎月集計（大型店連絡協議会が平成 16 年 6 月より実施）

開始当初から平成 24 年度末までの辞退者延べ人数 28,510,770 人

平成 16 年 6 月	平成 24 年 3 月	増加率
128,638 人	499,445 人	288.3%（約 3.88 倍）

茅ヶ崎ハレの日パッケージ事業（茅ヶ崎市商店会連合会が実施）

～ハレの日パッケージとノーパッケージで容器包装を減らそう～

- ・地域の行事である七夕、浜降祭、七五三、正月、椿まつり、オリジナルマスコット「まちぐるみ」などをあしらった包装「茅ヶ崎ハレの日パッケージ」を作成し、マイバックで消費者に買い物をしてもらい、贈答などでラッピングを希望する消費者には、上記パッケージを用いた包装を行うことで、レジ袋などの包装の削減を図る。

環境省の平成 21 年度「地域における容器包装廃棄物 3 R 推進モデル事業」採択事業

今後の取組について

「エコ・シティ茅ヶ崎マイバッグ推進会議」は平成 25 年度に 10 周年を迎えることを契機に、

- ・マイバッグ推進に関するビデオの作成
- ・地域運動会でのマイバッグを使用した競技の取り入れ

など、今後もより一層取組を推進していきます。

参考

茅ヶ崎市の取組

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f6754/p20832.html>

茅ヶ崎市ホームページ

<http://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/kankyo/gomigenryo/010652.html>

エコ・シティ茅ヶ崎マイバッグ推進会議

<http://www.chigasaki-cci.or.jp/mybag/>

(2) 藤沢市

- 指定日 平成22年4月21日
- 指定地域 藤沢市(片瀬地区・鵜沼地区)
- 活動期間 平成22年4月22日～平成24年3月31日
- 名称 藤沢市レジ袋削減推進モデル地域協議会
- 構成員 7 消費者団体(ハチドリの会、すずめの会、片瀬地区生活環境協議会、おにんどん会、鵜沼地区生活環境協議会、鵜沼地区町内会自治会連合会、藤沢市地球温暖化対策協議会)
- 6 事業者9店舗(株式会社スズキヤ・スーパーマーケットスズキヤ鵜沼店、相鉄ローゼン株式会社・相鉄ローゼン鵜沼店、富士シティオ株式会社・Fuji 鵜沼店、Fuji 鵜沼藤が谷店、株式会社やまか・やまか片瀬山店、やまか江の島店、やまか本鵜沼店、ユニオネックス株式会社・もとまちユニオン鵜沼店、株式会社ピーコックストア・大丸ピーコック藤沢店)
- 4 商店会(本鵜沼商店街協同組合、鵜沼海岸商店振興組合、391ビル商店会、湘南すばな通り商店街振興組合(平成22年6月24日解散))



モデル地域になる経緯

片瀬地区のくらしまちづくり会議の中で、平成20年度、21年度の2年間レジ袋削減運動に取り組んで来た実績が評価され、「神奈川県クールネッサンス宣言」の取組の一つである「神奈川県におけるレジ袋の削減に向けた取組の実践に関する宣言」に基づくモデル地域として神奈川県からモデル地域として指定を受けた。

レジ袋削減に向けた藤沢市の事業概要

1 事業趣旨

藤沢市は、環境にやさしい生活スタイルの確立に向けて、市民生活でのレジ袋削減の推進を図るため、平成22年度から市内の片瀬地区及び鵜沼地区を「藤沢市レジ袋削減推進モデル地域」として、藤沢市、地区内の店舗事業者、消費者団体等各種団体に協働してレジ袋削減に取り組む。

2 取組内容

(1) 藤沢市

賛同者と共に構成する「藤沢市レジ袋削減推進モデル地域協議会」(以下、「協議会」という。)を設置して、環境学習等の啓発に努めるなど、レジ袋の削減に向けた取組の推進を図ります。また、賛同者の各取組に対して広報等により積極的に支援するとともに、賛同者の拡大に努めます。

(2) 店舗事業者

次のアからカまでの取組を1つ以上実施してレジ袋の削減を推進し、その取組状況を協議会へ報告します。また、協定締結者と連携し、マイバック持参等を呼びかけるキャンペーンの実施や協議会のアンケート等の実施に協力します。

ア レジにおいてマイバック持参の推奨及びレジ袋辞退の呼びかけを行います。

イ 店内においてマイバック持参等のポスター掲示や放送等による啓発を行います。

ウ 店頭でのマイバックの販売を促進します。

エ レジ袋の辞退者へサービス特典を付与します。

オ 取組状況を積極的に消費者等へ公表します。

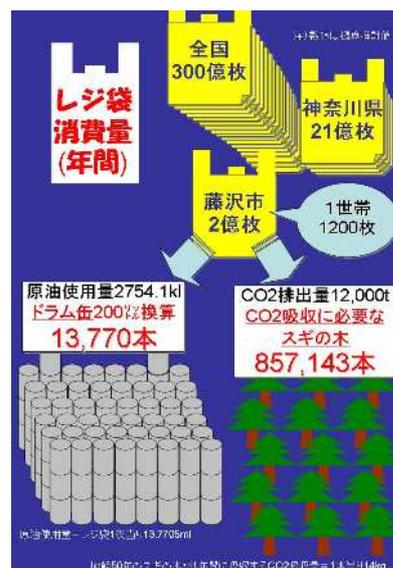
カ その他効果的と考える取組を行います。

(3) 消費者団体等

モデル地域の消費者に対してレジ袋の削減の啓発を推進するとともに、店頭キャンペーンへ協力するなど店舗事業者の取組について積極的に支援し、マイバック持参等の運動を浸透させることに努めます。

2年間の活動内容について

協議会は、藤沢市、店舗事業者、消費者団体等の3者で組織し、各委員はレジ袋削減に向けた取り組みの検討等を行うため、部会(研修部会、キャンペーン部会)に所属し、隔月で開催される定例協議会において具体的な手法を協議した。



(1) 藤沢市

協議会の運営や啓発活動を中心に活動を実施し、次のような内容で実施した。

- ア 協議会や各部会（研修部会・キャンペーン部会）の運営を実施。
- イ 市内 35 校の小学校 4 年生と市内保育園児童に対し環境学習を行った。
- ウ 市内、市外の環境施設の視察を行い環境行政に対する知識の向上を図った。
- エ ラジオ、タウンニュース、市のホームページ、ごみ NEWS、協議会ニュース等により啓発活動を実施。
- オ モデル地域内の事業者に対し協議会へ参加の啓発活動を実施
- カ 神奈川県からキャンペーンキャラバン隊の派遣、風船、ポケットティッシュなど配布物の提供を受けた。

(2) 店舗事業者

レジ袋削減に向け消費者に対し、各種の方法により辞退率の向上に向け次のような内容を実施した。

- ア 地域内のスーパー（やまか・ローゼン・ユニオン・スズキヤ・Fuji）の各店舗は、各店の状況により、レジ袋有料化、幟旗の設置、辞退率の掲示、レジや放送による辞退の呼びかけ、店頭キャンペーンの協力、エコバック、マイバックの販売、辞退者へのポイント付与等を実施。
- イ 地域の商店街は、主に呼びかけ等を中心に実施。

(3) 消費者団体等

各消費者団体については、積極的にレジ袋削減に向けたPR活動や研修会を実施した。

- ア 地域内スーパーマーケット店頭における街頭キャンペーンの開催（16回）
- イ 市内環境施設、市外環境施設の視察研修会（3回）
- ウ 小学4年生と中学2年生へのアンケートの依頼と回収、内容の分析（3回）
- エ 協議会ニュースの発行（6回）
- オ 新規賛同者の開拓（随時）
- カ 藤沢市民まつりへの出展PR、片瀬地区公民館まつりへの出展PR、鶴沼地区公民館まつりへの出展PR、消費生活展への出展PR、環境フェアへの出展PR、
- キ 環境の研究者による講演会の実施（2回）
- ク 地域のラジオ番組によるPR、タウン誌によるPRを実施。



今後の取組について

平成24年3月末をもって、モデル地域として2年間の取組を終了し、これまでの取組実績や成果、反省点を踏まえ、全市実施に向け藤沢市生活環境連絡協議会へ事業の継承を依頼し、同協議会から市内13地区の各生活環境協議会にレジ袋削減の取組を呼びかけ、各地区では、それぞれの状況に合わせてエコバックの無料配布、エコバックの廉価での斡旋、駅頭キャンペーン、店頭キャンペーン、中学生を対象とした環境学習会、公民館祭りでの呼びかけなど幅広い取組を行っている。

4 賛同事業者の取組

【イオンリテール株式会社】

【株式会社Olympic】

【株式会社グルメシティ関東】

【株式会社 三和】

【株式会社しまむら】

【相鉄ローゼン株式会社】

【富士シティオ株式会社】

【生活協同組合うらがC O O P】

【麻布大学生生活協同組合】

【株式会社クリエイトエス・ディ】

【ツルハドラッグ】

【伊勢原市農業協同組合】

イオンリテール株式会社

これまでの取組について

当社は、1991年からレジ袋削減に取り組んでおり、イオングループ全社で「買物袋持参運動」を実施しています。2012年度までに、18億444万枚のレジ袋削減を達成しました。レジ袋辞退率は、63.4%となり、多くのお客さまにご協力をいただきました。



神奈川県内2箇所のイオン店舗（久里浜店・金沢シーサイド店）では、レジ袋の無料配布中止を実施。8割のお客さまがレジ袋を辞退していただいております。レジ袋を販売した収益金は、自治体に贈呈させていただき、環境保全活動に活用頂いています。

今後の取組について

本年「バイオ・マイバスケット」を発売致しました。原材料の一部に植物由来の素材を使用することにより、CO2排出量削減することが出来ました。

参考

イオングループの「環境への取り組み」は、以下のHPにてご確認下さい。

<http://www.aeon.info/environment/>

これまでの取組について

- 1) 県外ではありますが、平成19年6月29日に杉並区と「レジ袋有料化モデル事業に関する協定書」に調印し、それにより現状レジ袋辞退率約90%の実績を上げております。
- 2) 神奈川県内では、平成21年5月12日に「レジ袋削減に向けた取組みの実践に関する宣言」を行い、各店でレジ袋削減運動をキャラバン隊にお願いして、お客様にマイバッグ持参を呼びかけることで、レジ袋辞退率を徐々にですが上げて参りました。
- 3) 神奈川県内各店の店内に、レジ袋削減をお願いするポスターを掲示し、店内放送でもお客様にマイバッグ持参をお願いすることで、レジ袋辞退率を徐々にですが上げて参りました。

今後の取組について

各店舗に右記ポスターを掲示し、ホームページや店内放送などで、お客様にレジ袋の削減をご依頼して参ります。



参考

ホームページ「<http://www.olympic-corp.co.jp/>」のバナーにも、ポスターと同様にレジ袋削減のご依頼を弊社キャラクターのトコトンがお客様にお願いする形で掲載しております。

株式会社グルメシティ関東

これまでの取組について



当社は、レジ付近に「エコバック」を販売してレジ袋の削減に取り組んでおり、レジにてお客様に「レジ袋を辞退、マイバッグを持参のご協力」の声かけを実施しております。

また、レジ袋を辞退されたお客様には当社ポイントカードシステム「ハートポイント」を2ポイント付与するなど、より多くのお客様にレジ袋をご辞退頂けるよう、推進活動を実施しております。

(キャッチフレーズ)

レジ袋ご辞退されると2ポイント付与になります。



今後の取組について

青果・鮮魚・フライ等の売場ではだか売りを増やし、食品トレーの削減やギフト販売時にはお客様に簡易包装を推進して、さまざまな容器包装の削減をしていきます。

参考

ダイエーホームページ（店舗・商品についてはこちら）

<http://www.daiei.co.jp/>

ダイエー環境社会貢献活動ホームページ

（ダイエーの環境保全活動についてはこちら）

<http://www.daiei.co.jp/corporate/csr/index.html>

株式会社 三和

これまでの取組について

- ・三和店舗 レジ袋不要の協力者に対して、三和1ポイントを提供
- ・フードワン店舗 レジ袋不要の協力者に対して、2円引きを実施
- ・小山田店においては、実験店舗としてレジ袋ゼロを実施
- ・マイバックキャンペーンの実施 年2回バッグのプレゼント企画あり
- ・新店舗オープンの際にマイバッグのプレゼント企画あり

今後の取組について

- ・ポイント会員への協力の呼びかけと制度化を、今後も各店舗が地域の皆様と協力して、レジ袋削減の取組を推進していく
- ・レジ袋の容量の変更（薄化）に取り組む予定

参考

・三和店舗

・フードワン店舗



株式会社しまむら

これまでの取組について

弊社は地球環境保護の観点から、レジ袋削減の運動に取り組んでいます。

レジ袋の受け取りを辞退していただいたお客様には、エコポイントと称して会員カードのポイントを進呈しています。

また、本社のある平塚市の各種団体（市役所、商工会議所、商店街連合会、ゴミ減量化婦人の会、湘南ベルマーレなど）とともに「湘南ひらつかマイバッグ推進本部」に参加し、レジ袋削減に関する啓蒙活動およびオリジナルマイバッグの制作を行っています。

これまでの削減実績は以下のようになります。

- ・2010年度 削減率 37%
- ・2011年度 削減率 40%
- ・2012年度 削減率 41%

今後の取組について

引き続き地域に根ざしたレジ袋削減運動を展開し社会貢献につなげていきたいと考えています。



レジに貼っているお客様向けアイキャッチ

参考

<http://www.shimamura-store.com/index.html>

<http://www.shimamura-store.com/preparation.html>

<http://www.bellmare.co.jp/22583>

相鉄ローゼン株式会社

これまでの取組について

1. ポイント付与

弊社カード（ウェルカムカード）会員様がレジ袋不要をお申し出になられた場合にお客様に4ポイントを付与。

2. 店内放送で「地球にやさしい買物行動」を呼びかける。

3. 「レジ袋削減キャンペーン」実施によるお客様への啓蒙をおこなう。



レジ袋削減キャンペーン



ウェルカムカード

今後の取組について

美しい地球を次世代へ引き継ぐために、各店舗が地域の皆様と協力してレジ袋の削減だけでなく節電・節水をも含めた環境問題に取り組んでおります。さらに、10月(3R月間)には「容器・包装ダイエット宣言」に参加し、容器包装の削減に取り組み、環境にやさしい街づくりに貢献したい。

参考

ホームページアドレス

<http://www.sotetsu.rosen.co.jp/>

富士シティオ株式会社

これまでの取組について

当社は2010年3月より「少しずつ始めました。地球にやさしいこと」をスローガンにレジ袋削減に取り組んでまいりました。レジ袋辞退者にはTポイントを2ポイント付与させていただきスタート当初15%だった辞退率が20%を超えるようになりました。

お客様へお知らせ

富士シティオでは、「少しずつ始めました。地球にやさしいこと」を合言葉に地球温暖化防止に取り組んでいます。この一環でレジ袋削減の取組を行っています。お客様のご協力をお願い致します。

レジ袋をご辞退頂いたお客様には

Tポイントを2ポイント付与させていただきます。

*210円未満のお買い物場合はポイント付与対象外とさせていただきます。

レジ袋をご辞退頂いたお客様



Tポイント2ポイントを付与します。

対象外商品

以下の商品のみを購入された場合はポイント付与の対象外とさせていただきます。

●ギフト券(商品券、お米券、ビール券) テレフォンカード、
切手、印紙、はがき、有価証券、たばこ、
店頭学習商品、各種自動販売機購入商品、テナントでの
お買上げ商品(クリーニング含む) 純信商品、OPE

●持ち手がある商品

例: トイレ用ペーパー(12ロール)、ティッシュペーパー(5箱)
レンジフード等

●レジ袋に入らない商品

例: 切花、食料品の種売り、飲料の種売り 等

店長



今後の取組について

ご来店頂いているお客様へマイバック持参等レジ袋削減について更にご協力頂きレジ袋辞退率を伸ばすため、店内放送やレジでの声掛けを強化し取り組みしてまいります。

お客様への啓発活動として毎月掲示しているレジ袋辞退率表は継続します。

参考

URL <http://www.fujicitio.com>

生活協同組合うらがC O O P

これまでの取組について

1980年から取組みを始めて今年で33年目を迎えました。私たちがこの取組みをスタートさせた「レジ袋無料配布が当たり前の時代」から、多くの市民が資源や環境を強く意識する昨今の情勢では、進め方にも大きな違いがあります。現状の私たちの取組みも地域性で多少の違いがあって、店舗ごとに削減率実績には97%～90%と開きがあります。取組み開始から一貫してお店利用者はマイバッグ持参（毎月5日はマイバッグの日）を基本に、レジ袋希望者には有料で販売する方式をとっています。

今後の取組について

まずは各店舗のレジ袋削減率を同率とすることが目下の課題ですが、最終的には、生協でお買い物される全ての利用者が「マイバッグ」を持参され、販売されているレジ袋が0ゼロになることが目標です。これまで委員会に所属された一部の組合員の周知事項だった所属店の削減率を広く利用者にもお知らせできるようにして削減率100%実現に向けて、これからも利用者の意識を変える努力を一つ一つ積み重ねていきます。

参考

ホームページ「うらがC O O P m a m a の広場」で検索して下さい。

麻布大学生生活協同組合

これまでの取組について

麻布大学生生活協同組合では2008年4月よりレジ袋削減をめざしてレジ袋の配布をやめ、どうしても必要な学生・教職員の方々には5円の負担をしていただいております。少しでも負担することで、ゼロに向けて組合員に意識してもらうことを行っております。

5円の負担金については、一年に一度集計し、ユニセフに募金しています。

学生・教職員から取組みについての問い合わせ等は特にないのが少し残念ですが、麻布の風土になってきております。



今後の取組について

現在は上記の取り組みを行っています
が、組合員への啓蒙活動としてはまだまだ
弱いので、学生といっしょにキャンペ
ーンなども検討していきます。取り組み
自体は特に教職員・学生からも特に意見
もないので、それは麻布の風土として引
き続き行っていくとして、組合員に意識
してもらおうという活動に重点を置くこと
を重要となってきました。

学内のお店ということもあって、マイ
バックというような取り組みはあまり必
要ないと思いますが、

参考

麻布大学生生活協同組合ホームページ
<http://www.univcoop.jp/azabu/>



株式会社クリエイトエス・ディー

これまでの取組について

当社は2008年6月より、お客様のご協力のもと、お買物袋ご持参運動に継続的に取り組み、レジ袋使用量の削減とCO₂排出量の削減に、取り組んでいます。これを促進するため、お買物袋ご持参のお客様には、1ポイントを進呈しています。

<お買物袋ご持参運動>

各店舗の店頭に、下記進捗ボードやポスターを掲示しています。



今後の取組について

皆様のご協力により、お買物袋のご持参率およびCO₂削減量は、着実に高まっております。誠にありがとうございます。引き続き皆様のご協力をお願い申し上げます。

参考

当社ホームページで、毎月の進捗報告をしております。

<http://www.create-sd.co.jp/>

ツルハドラッグ

これまでの取組について

弊社では環境保護への全社的な取組の一環として、2008年の1月からレジ袋削減運動を実施しております。マイバッグご持参のお客様へ環境保護の取組へのご協力に対するお礼として、弊社のポイントカードに1ポイントを付与しております。

店内でのポスター掲示とレジでのお声かけを実施し、マイバッグ持参のお客様に対しては「ご協力ありがとうございます」と対応しています。

また、県主催のキャラバン隊の活動にも店舗をご利用いただいております。神奈川県における弊社のマイバッグ持参率は13%前後ではありますが、5年以上に渡り34店舗で継続しており、累計で500万枚のレジ袋削減に繋がりました。

今後の取組について

今後も、微力ではありますがこの活動を継続することにより環境保護の取組に積極的に参加して行きたいと考えております。



伊勢原市農業協同組合

これまでの取組について

当JAでは2009年5月より組合員・利用者の協力のもとレジ袋削減に取り組んでいます。

2009年よりレジ袋の有料化を実施し、一定の成果を得られていましたが、2011年12月より組合員・利用者からの要望に応える形で、レジ袋辞退者への割引に切り替えました。切り替えた結果、辞退率は減少しましたが、継続的に取り組んでまいりました。

また、毎年いせはら・比々多農産物直売センターの2店舗でキャラバン隊によるレジ袋削減PRを実施しています。

今後の取組について

取組内容は現行のとおり、継続的に取り組んでまいります。



参考

<http://www.jakanagawa.gr.jp/isehara/index.html>

5 各種アンケートの調査結果

県では、レジ袋削減に関する実態や意識を把握するため、平成 21 年度から平成 24 年度まで「レジ袋削減 P R キャラバン隊」による県民アンケート調査を実施しました。

(1) 回収状況

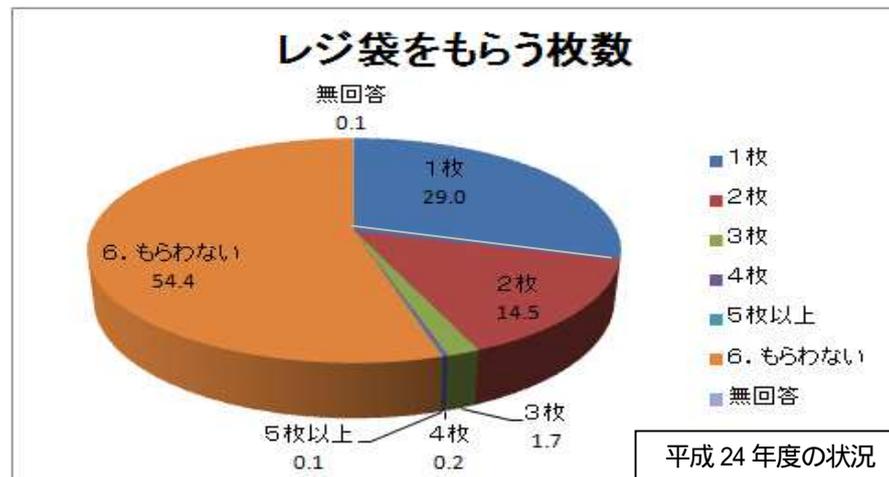
	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度
回収状況	17,186 人	14,098 人	13,484 人	10,562 人

(2) アンケートの主な結果

【問】スーパーマーケットなどの 1 回の買い物で、平均してもらおうレジ袋の枚数について

	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度
もらわない人の割合	40.5%	46.4%	42.9%	54.4%

P R キャラバン隊アンケート調査結果による



【問】レジ袋をもらう理由について (複数回答)

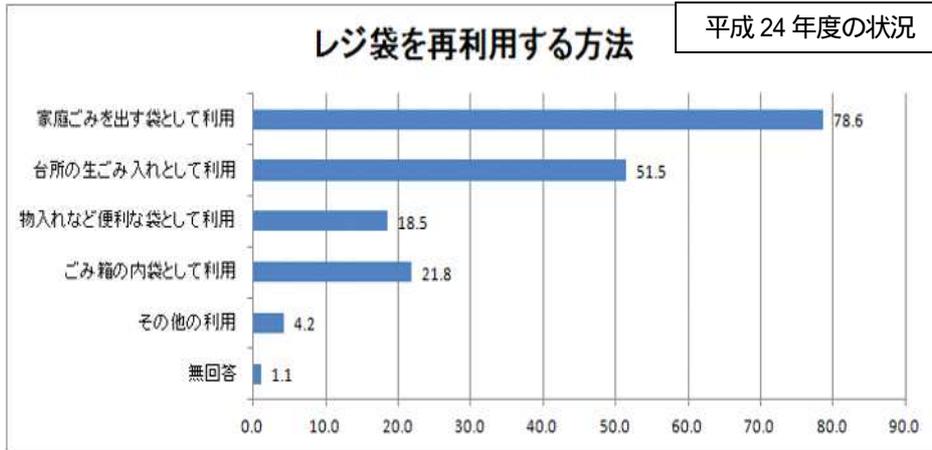
	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度
再利用する	59.3%	80.4%	68.6%	80.3%

P R キャラバン隊アンケート調査結果による

【問】レジ袋を再利用する方法について (複数回答)

	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度
家庭ごみを出す袋として	83.8%	82.9%	86.6%	78.6%
台所の生ごみ入れとして	50.9%	49.1%	57.7%	51.5%

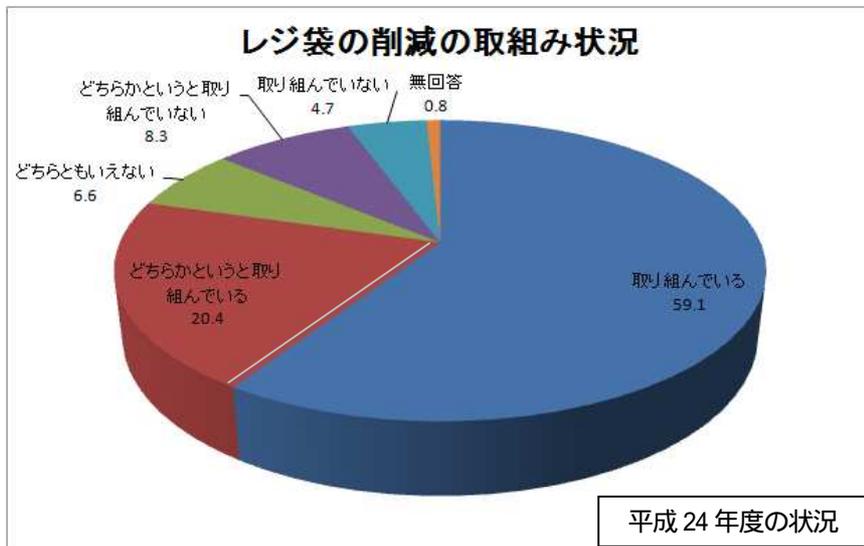
P R キャラバン隊アンケート調査結果による



【問】マイバッグの持参や不要なレジ袋をもらわないことなど、レジ袋の削減の取組について

	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度
取り組んでいる	70.4%	65.7%	64.7%	59.1%
どちらかというに取り組んでいる	13.3%	17.5%	17.9%	20.4%
計	83.7%	83.2%	82.6%	79.5%

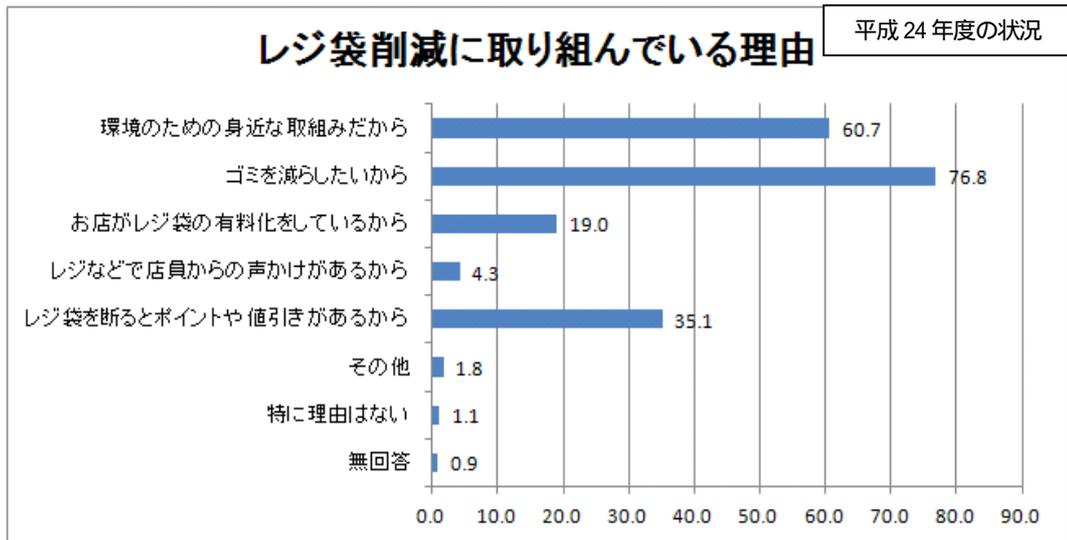
PRキャラバン隊アンケート調査結果による



【問】レジ袋の削減に取り組んでいる理由について（複数回答）

	21 年度	22 年度	23 年度	24 年度
環境のための身近な取組みだから	58.3%	55.8%	59.7%	60.7%
ゴミを減らしたいから	57.8%	56.8%	59.4%	76.8%

PRキャラバン隊アンケート調査結果による



【問】レジ袋の削減の取組が進むきっかけについて

	21 年度	22 年度	23 年度
有料化されたら	44.0%	41.7%	42.2%
ポイントや値引き	30.8%	36.6%	35.6%

6 普及啓発一覧

県は、レジ袋削減に関して様々な普及啓発を実施してきました。4年間の主な普及啓発は、次のとおりです。

(1) レジ袋削減PRキャラバン隊の活動(平成21年度～平成24年度)

レジ袋削減などの認知度向上、マイバック持参の県民への普及に向け「PRキャラバン隊」を結成し、のぼり、ポスター等を使用した普及啓発活動を店頭、駅前等で実施しました。

平成21年度：9月～3月上旬(130日間)、520箇所で開催

平成22年度：6月～11月(80日間)、324箇所で開催

平成23年度：6月～12月(122日間)、440箇所で開催

平成24年度：6月～12月(120日間)、705箇所で開催



【レジ袋削減PRキャラバン隊の活動】



(2) 宣言賛同者への支援

【平成21年度】

- ・宣言書
- ・ポスター(2種類)
- ・ステッカー(3種類)
- ・広報用テンプレート等の作成・配布
- ・宣言賛同者への啓発物品の貸与
(のぼり、半被、パネル等)



【ポスター(2種類)】



【平成 22 年、平成 23 年度】
レジ袋不要カードの作成・配布



【レジ袋不要カード】

【平成 23 年、平成 24 年度】
レジ袋削減達成特定店舗への目標達成ステッカーの作成・配布

(3) 各種イベントでの啓発

県主催イベント「かながわ 3 R 祭」
(来場者数約 5 万人)

平成 23 年 3 月 5 日に「みなとみらい
クィーンズスクエア横浜 1F クィーンズ
サークル」で 3 R の実践を呼びかける
イベントを実施し、レジ袋削減を呼びか
けました。

- 「賛同事業者の取組のパネル展示」
- 「イメージキャラクター心太のぬりえ
コーナー」
- 「3 R トークショー」 など



【かながわ 3 R 祭のポスター】

地球環境イベント「アジェンダの日」(4 年間の平均来場者数約 12 万人)



【「アジェンダの日」(平成 24 年度)】

平成 21 年度から平成 24 年度まで日本大通りや象の鼻パークにおいて、ブース出展を行い、レジ袋削減のパネル展示、啓発ティッシュの配布などによりレジ袋削減を呼びかけました。

市町村環境イベント

平成 20 年度以降市町村環境イベントへ出展し、マイバックキャンペーンを実施しました。

(4) ホームページ「神奈川県におけるレジ袋削減の取組」

宣言賛同者名の公表、宣言賛同者ホームページへのリンク貼り、レジ袋削減取組の紹介等。

(5) 各種広報

新聞(神奈川新聞)

平成 22 年 2 月 16 日 県民の窓

テレビ（テレビ神奈川）

平成 21 年 5 月 28 日 「 t v k ニュース 9 3 0 」

平成 22 年 1 月 6 日 「ハマランチョ」

平成 23 年 10 月 2 日 「カナフルTV」（3R 推進月間）

ラジオ

平成 22 年 3 月 1 日 「神奈川県情報」 / NHK 横浜 FM

平成 22 年 10 月 2 日 「KANAGAWA Muffin」 / FMヨコハマ

平成 24 年 8 月 15 日 「カワサキ UPSTREAM」 / FMカワサキ

パネル展示

新庁舎〔毎年 6 月・10 月〕、

あーすプラザ〔平成 24 年 5 月～7 月〕



【県庁（新庁舎）での展示】

電光掲示板

期間・場所：平成 22 年 3 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日 県庁新庁舎前

掲 示 内 容：週単位で掲示（次の 2 項目を交互に掲示）

必要以上のレジ袋はもらわない！ CO2 やごみ削減のため事業者、
各種団体、市町村、県のレジ袋削減の取組にご協力を
買い物はマイバッグ持参で！ 買い物マナーにご協力を 買い物中は
マイバッグを折りたたんで マイバッグは会計が済んでから

各種広報紙



- ・ 県のたより
〔H21.6 月号・10 月号、H22.10 月号〕
- ・ かながわくらしのジャーナル
〔H21.10 月号・11 月号〕
- ・ 暮らし安全通信〔H22.3 月号〕
- ・ しんかんきょう〔H22.7 月号〕
- ・ こんにちは神奈川〔H24.夏号〕 他

【県のたより】



【かながわくらしのジャーナル】

(6) キャッチフレーズ・イメージキャラクター

県民のみなさんとともに「レジ袋の削減」の取組みを進めていくため、親しみやすく、覚えやすい「キャッチフレーズ」と「イメージキャラクター」を募集し、知事が決定しました。

各部門で入賞作品4点（最優秀賞1点・優秀賞3点）を決定し、賞状を授与するとともに、副賞として「かながわの名産品」を贈呈しました。

募集内容等

募集期間：平成20年5月1日(木)～平成20年6月10日(火)

応募総数

[キャッチフレーズ部門]	418人	801作品
[イメージキャラクター部門]	457人	531作品

選考結果

【のぼり旗】

[キャッチフレーズ部門]



最優秀賞	持っています エコの心と マイバッグ	和歌山県 田中さん
優秀賞	『持ってます。』わたし好みのマイバッグ	横浜市 吉田さん
優秀賞	持ち物はエコの心とエコバッグ	相模原市 加藤さん
優秀賞	できること、みんなでやれば、すごいこと。	東京都 野呂さん

[イメージキャラクター部門]

最優秀賞	心太(しんた)	香川県 瀬戸さん
優秀賞	削減君	熊本県 成瀬さん
優秀賞	エコNON(えこのん)	青森県 工藤さん
優秀賞	(名称なし)	川崎市 時山さん

名称の由来

「心太」は「ところてん」と読むことから、ダイエットが連想されるため、レジ袋＝ダイエットと結びつき、地球のダイエットに繋がる。

県民が「環境にやさしい生活スタイル」をはじめのきっかけになればという願いから命名した。

また、キャッチフレーズの最優秀賞作品の「心」にも通じる。

